

脳死下臓器提供に関する検証資料フォーマット 1: 「治療経過」～「脳死とされうる状態の診断」

施設名	患者イニシャル	生年月日	年齢(歳)	性別	記載責任者	記載年月日	診断名	
日本医科大学付属病院	●●	平成○年○月○日	46	男性	横田裕行	2020/5/5	急性硬膜下血腫	別項1a

治療経過		救急隊対応 ↓ / ドクターカー →			有	救急外来あるいは一般病室入院時			集中治療部門			
		覚知	現着	現発					入室およびその後(状態変化時等)		救命困難と判断した経過と根拠	
時間	月日	2019年 12月 29日(～ 月 日)			2019年 12月 29日(～ 月 日)			入室 2019年 12月 29日		年 月 日		
	時分	13時 10分 13時 15分 13時 30分			13 時 35分			入室 16時 14分				
病歴		病歴・病院前対応 別項1a, b										
バイタルサイン	ECG波形					洞性頻脈		洞性頻脈		洞性頻脈		
	血圧 収縮/拡張 mmHg					185 / 98		166 / 92		166 / 92		
	心拍数 /分					112		98		98		
	呼吸数/ 分					20		14 自発呼吸あり		0 自発呼吸なし		
	体温(測定部位 / °C)					腋窩 36.2		腋窩 36		膀胱 36.1 35.8		
意識	JCS					100		200		300		
	GCS					E( 1 ) V( 2 ) M( 5 )		E( 4 ) V( 5 ) M( 5 )		E( 1 ) V( T ) M( 1 )		
瞳孔	右径・反射					( 5 ) mm 緩慢		( 3 ) mm 消失		( 3 ) mm 消失		
	左径・反射					( 2.5 ) mm 緩慢		( 3 ) mm 消失		( 3 ) mm 消失		
頭蓋内圧測定										初圧 : 16mmHg (脳灌流圧 mmHg) 最高値: 45mmHg (脳灌流圧 mmHg)		
有												
血液検査								添付資料検査値1(以下を含めて時系列印刷)		月 日 添付資料検査値2 添付資料検査値3		
画像検査	CT/MRI					年 月 日 時 分 正中線構造が5mm以上偏倚した左急性硬膜下血腫、左前頭葉挫傷(別項2と重複)。 別項2		年 月 日 時 分 所見:反衝損傷の左側頭葉挫傷とそれによる脳浮腫が増大 別項3		年 月 日 時 分 別項4		
	その他の画像検査					年 月 日 時 分		年 月 日 時 分		年 月 日 時 分		
	添付資料					所見 別項2		所見 別項3		別項4		
						添付資料画像1		月 日 添付資料画像2		添付資料画像3		
合併症	尿崩症							年 月 日から		年 月 日まで 継続		
	肺炎							年 月 日から		年 月 日まで		
								年 月 日から		年 月 日まで		
								年 月 日から		年 月 日まで		
処置・治療	酸素(%)					100%		100%		50%		
	気道確保法					自然気道		気管挿管		気管挿管 気管切開		
	除細動	0回				0回		0回				
	心肺蘇生術	無				無		無				
	輸血					無		無		無		
	薬剤					アドレナリン( 0 )A		アドレナリン( 0 )A		昇圧剤その他 別項5a、脳死判定に影響を与える薬剤 別項5b		
	手術					1回目 開始日時 年 12月 29日 14時 00分		2回目 ●●年 1月 1日 14時 00分				
	有					別項3		術式 ( 左減圧開頭、外減圧 ) 別項3				
	体温管理療法							開始:●●年12月 29日 18 時 00分 目標 34℃ 復温:●●年12月 30日 18 時 00分 目標 36℃				
	有											
	過換気療法							開始: 年 月 日 時 分 終了: 年 月 日 時 分				
	無							開始: 年 月 日 時 分 終了: 年 月 日 時 分				
	その他の治療( )											
無												
家族への説明						添付資料4 診療録コピー						
治療方針とその根拠						初期治療の概要・方針・根拠 別項2		集中治療期間の治療概要 別項3		方針変更と根拠・その後の治療概要 別項4		

直接記載(必須)	資料添付
直接記載(実施時)	Format 2 別項記載
プルダウン選択または直接記入	

脳死とされうる状態の診断		
開始時刻	2020/1/3 11:41	
終了時刻	2020/1/3 14:52	
血圧 収縮/拡張	117 mmHg/82 mmHg	
心拍数	106 回/分	
体温(測定部位)	38.5℃(膀胱)	
JCS	300	
GCS	3	
脳幹反射	右	左
瞳孔径 (mm)	( 6 )mm	( 6 )mm
瞳孔対光反射	無	無
角膜反射	無	無
毛様脊髄反射	無	無
眼球頭反射	無	無
前庭反射	無	無
咽頭反射	無	無
咳反射	無	
脳波記録日時(開始～終了)	2020/1/3 11:41 ～ 12:20	
呼名刺激/疼痛刺激	有	有
平坦脳波	確認	
聴性脳幹反応第Ⅱ波以降消失	確認	
人工呼吸の継続時間(日:時間:分)		
人工呼吸開始:	2019/12/29 14:00	
脳死とされうる状態診断確定まで	04:21:41	
深昏睡持続時間(日:時間:分)		
深昏睡確認時刻:	2019/12/29 14:00	
脳死とされうる状態診断確定まで	04:21:41	
添付資料検査値5 脳波・聴性脳幹反応などの記録		

脳死判定に影響する代謝内分泌障害	無
------------------	---

血中、尿中薬物スクリーニング	無
方法	法
サンプル	
検査日時:	年 月 日 時 分
検査結果の概要	

別項6
※ 追加情報については適宜別項6に記載。

脳死下臓器提供に関する検証資料フォーマット 2: 別項1～6

別項 1a	主たる病因と病名		外因	急性硬膜下血腫	脳挫傷		
	脳死に至った病態の経緯		頭部打撲→硬膜下血腫→脳ヘルニア→脳死				
	現病歴・病院前対応	救急隊到着まで	オートバイで単独走行中、電柱と衝突した。目撃した通行人が同時刻に救急車を要請。救急車とA病院のドクターカー出動を指示。救急隊が先着した。				
現場での状態・活動		頭部を含めた全身打撲、JCS200、13時15分にドクターカーが到着し、同乗の医師が処置実施、B病院へ搬送。					
別項 1b	既往歴		年月	診断	入院/通院	入(通)院期間	手術
		1	2008年3月	右大腿骨骨折	入院	約2週間	有
		2					
		3					
別項 2	救急外来あるいは一般病室 入院時	救急外来治療の概要	頭部以外の体幹・四肢には損傷なし。バイタルサインを安定化後、13:45頭部および全身CTを施行。				
		CT所見追加	正中線構造が5mm以上偏倚した左急性硬膜下血腫、左前頭葉挫傷				
		他の画像( )追加					
		治療方針と根拠	脳ヘルニア兆候を認めたため救命目的に開頭術の方針とした。				
別項 3	集中治療期間 (入室およびその後)	手術1所見追加	止血に難渋したが、方針通りに実施できた。				
		手術2所見追加	高度な脳腫脹を認めた				
		入室後初回CT所見追加	反衝損傷の左側頭葉挫傷とそれによる脳浮腫が増大(○日○:○○)				
		他の画像( )追加					
		治療の概要	入院治療による改善なし。2度の開頭術後も頭蓋内圧のコントロールは困難。				
別項 4	救命困難の判断以降	CT所見の追加					
		他の画像( )追加					
		治療の概要					
		治療方針変更の概要と根拠	2回目の開頭術後も頭蓋内圧が上昇し、入院当日夜に突然血圧が低下したため、鎮静剤、筋弛緩剤等を中止し、ノリアドレナリンで血圧を維持。その後も神経学的所見に変化なく、脳死とされうる状態の判断に至った。				
別項 5a	昇圧剤・高浸透圧治療剤・抗利尿ホルモン等	目的	開始時刻	終了時刻	投与量		
	マンニトール(ml/日)	抗浮腫	2020/1/1 13:15	2020/1/1 20:00	900		
	ノルアドレナリン(μg/Kg/分)	昇圧	2020/1/2 20:05	継続	0.03～0.05		
別項 5b	脳死判定に影響を与える薬剤	目的	開始時刻 西暦/月/日 時:分	終了時刻 西暦/月/日 時:分	投与量	脳死とされうる診断開始 西暦/月/日 時:分	投与終了～診断開始 日数:時間数:分
	プロポフォール(ml/時)	鎮静	2020/1/1 13:15		8～10	2020/1/3 11:41	03:11:41
	フェンタニル(μg/時)	鎮痛	2020/1/1 13:15	2020/1/1 20:00	20		01:15:41
	ベクロニウム(mg/時)	筋弛緩	2020/1/1 13:15	2020/1/1 13:15	10		01:22:26
別項 6	追加情報記載欄（虐待の有無の確認）						